



2025年2月5日発行

第 126 号

事務局 〒161-0033 東京都新宿区下落1-3-16  
ジョリーメゾンヌベル下落合205号  
TEL/FAX 03-6457-3921  
E-mail n.s.e.g@d7.dion.ne.jp  
http://www.seishineisei.gr.jp/

〈目 次〉

対面大会を終えて……………1
第41回大会のお知らせ……………2
第40回大会参加記……………2
開催中のオンデマンド配信のご案内……………4
第3回研修会報告……………4
2024年度 第2回 常任理事会 議事録概要……………5
2024年度 第3回 理事会 議事録概要……………6



## 対面大会を終えて

日本精神衛生学会第 40 回大会 大会長  
中野 良吾(創価大学教育学部)

2024年12月14日(土)・15日(日)に創価大学教育学部において、日本精神衛生学会第40回大会を対面にて開催しました。師走のご多用の中、多くの方にご参加いただき、対面による第40回大会を盛会のうちに終えることができました。至らぬ点もあったとは存じますが、誠にありがとうございました。

今回の大会テーマは、「若者のメンタルヘルス、今後に向けて学会40年を振り返る」としました。振り返りますと、若者のメンタルヘルスについては、大会長講演では「大学受験予備校でのメンタルヘルス活動について」、松本俊彦先生の特別講演では「若者の自傷行為と市販薬乱用」、飯村周平先生の教育講演1では「HSP ブームの光と影」、ト部裕介先生の教育講演4では、「若手教員のメンタルヘルス―「先生」になるのは難しい―」というテーマで行うことができました。今後に向けて学会40年を振り返るについては、日本精神衛生学会40回大会記念シンポジウムにおいて「これからの精神衛生学会に期待すること」をテーマとして座長の影山隆之先生、シンポジストの西村靖史先生、菅野恵先生、安保寛明先生に議論していただき、新たな指針が得られたと思われました。また、学会創立40周年記念特設コーナーにおいて、第1回大会からのポスターやチラシの展示を

もとに 40 年を振り返り、学会誌のバックナンバーの販売も行いました。多くの方にご覧いただきました。

認定産業医研修として、影山隆之先生の教育講演 2「労働者の健康と睡眠」、真船浩介先生の教育講演 3「ストレスチェックを活かした職場環境改善」を行い、研修対象者だけではなく一般参加者の皆様にも公開いたしました。一般演題発表(口演 7 題、ポスター13 題)にも多くの方に参加いただきました。

15 日(日)の朝には、担当理事の福島眞澄先生の「能登半島地震支援「こころの避難所相談電話」報告」を行いました。現在も支援を続けております。支援終了後には学会誌「こころの健康」で報告される予定です。

なお、本大会は、2025 年 1 月 15 日(水)から 2 月 28 日(金)の期間にオンデマンド配信を行っておりますので、ぜひご視聴ください。

最後に、本大会の企画から準備、および、当日の運営には、顧問の影山隆之先生、大会事務局長の高下梓先生のもと多くの学会関係者スタッフと創価大学の学生、院生および、卒業生のご尽力がなければこのような大会は開催できなかったと感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

## 日本精神衛生学会第 41 回大会のお知らせ

会 場：北翔大学(北海道)

会 期：2025 年 12 月 13 日(土)～14 日(日)

大会長：飯田 昭人(北翔大学)

## 第 40 回大会参加記

創価大学大学院教育学研究科

白井 朋世

2024 年 12 月 14 日、15 日に日本精神衛生学会第 40 回大会が創価大学・教育学部棟にて開催されました。今回、学会初参加という身ではありましたが、運営委員として準備から携わらせていただき、また大会 1 日目には一般演題を発表させていただきました。学会の大会運営に関わらせていただくことも、口頭発表をすることも初めての経験でしたが、大会当日はもちろん、準備

の期間を通してさまざまなことを学ばせていただいたように思います。当日までの準備期間では、40周年記念の特設展示を担当させていただき、過去の学会誌の内容や大会記録をまとめる機会に恵まれました。日本精神衛生学会の歴史やこれまでの足跡についてほとんど何も知らなかった自分にとって、学会の歴史や足跡について、諸先生方の言葉を通して学ばせていただく時間になり大変勉強になりました。「衛生」という言葉が持つ意味や、一部の専門職だけに限られない非常に開かれた学会であることによる研究の幅の広さを知り、自身の研究内容の位置づけについて考えることができ、口頭発表の準備や自身の研究内容の新たな理解につながったように思います。また、過去のニュースレターを読む中では、大会参加記を執筆された多くの方が「和気あいあいとしたアットホームな雰囲気」の中で安心して議論に参加することができたことを書き残されていました。実際に私自身も大会に参加してみて実感したことでもあり、素晴らしい学会に出会うことができ良かったと思う瞬間が多くありました。

大会当日は、受付と設営の責任者をさせていただいていた関係で、シンポジウムや講演をゆっくり聴くことはできませんでしたが、1月15日からのオンデマンド配信にて、拝聴させていただく予定です。それでも2日間を通してさまざまな先生方との交流があり、先生方の研究に対する思いに触れ、自身の研究に関する新たな気づきを得られた場面も多くあり、貴重な学びを得ることができました。大会を運営することの大変さも大会に参加することの楽しさも、どちらも経験することができたことは、これからの研究活動を支えるようなかけがえのない財産であると実感しています。

大会の運営に関しては自身の至らないところが多く、運営委員の先生方や学生スタッフの方にもご迷惑をおかけしてしまう場面もありましたが、うまくいかないこともそうでないことも全部含めて貴重な学びに繋げていただいたように感じています。今回、貴重な経験を積ませていただいたことに心から感謝申し上げます。



学会創立40周年記念特設コーナーの様子

# 開催中のオンデマンド配信のご案内

- 日本精神衛生学会第 40 回大会 ※演者より許可を得た 5 演題
  - ・臨床心理士の資格更新ポイント、日本精神神経学会専門医単位の取得が可能です。
  - ・期間:2025 年 1 月 15 日(水)~2 月 28 日(金)
  - ・申し込み:大会ページ(Peatix) <https://jamh-taikai.peatix.com>

- 日本精神衛生学会 2024 年度研修会 オンデマンド配信のご案内
  - ・第 2 回研修会「家族ががんになった時~子どものグリーフに寄り添うために~」  
講師:大曲 睦子(ルーテル学院大学総合人間学部准教授)
  - ・第 3 回研修会「障害を持って生まれた子どもが家に帰ってくる~家族が直面する困難と必要な支援~」  
講師:児玉久仁子(東海大学医学部看護学科/医療法人社団有隣会わかさ病院 医療相談室)
  - ・期間:2025 年 2 月 1 日(土)~3 月 23 日(日)
  - ・申込:研修委員会ページ(Peatix) <https://jamh-kensyu.peatix.com>

## 第 3 回研修会報告

- 第 3 回研修会:2024 年 10 月 20 日(日)13:00~16:00、オンライン開催(Zoom)
  - 「障害を持って生まれた子どもが家に帰ってくる~家族が直面する困難と必要な支援~」
  - 講師:児玉久仁子先生(東海大学医学部看護学科/医療法人社団有隣会わかさ病院 医療相談室)
  - 参加者:26 名

第 3 回研修会は、家族支援専門看護師の児玉久仁子先生を講師に招き、障害を持つ子どもとその家族の支援をテーマとして開催しました。

前半は、医療的ケア児の動向と家族をとりまく社会情勢、家族全体を対象と捉える支援のあり方、障害を持った子どもの成長発達に伴い家族が直面する危機について、家族の発達段階に沿って解説されました。後半の事例では、家族が直面する事態やそれぞれの心理、支援者として重要なポイントを詳細に学びました。出生前から退院後の家族・地域生活において様々な職種が支援に関わるため、家族支援専門看護師の視点を理解する上でも充実した研修となりました。

医療的ケア児の在宅療養支援

早い時期から在宅療養を促した相談が必要

重症心身障害児  
神経重症児  
人工呼吸器  
経管栄養など

行政機関  
生活支援員  
保健師  
児童相談所

訪問診療  
訪問看護  
訪問介護

児童発達支援  
障害児施設  
保育園  
特別支援学校

病院

アウトリチシステムの構築

親のQOLの低下  
睡眠不足

児玉久仁子

一般的な発達課題	子供の成長発達に伴い家族が直面する危機	家族が経験する危機状態(例)
<b>家庭の発達段階</b> 家庭の発達段階 親の成人化 親の成人化 親の成人化	家庭の発達段階(生まれ育った家庭)からの パートナーと密接な関係を感じる 家庭の発達段階(生まれ育った家庭)からの パートナーと密接な関係を感じる 家庭の発達段階(生まれ育った家庭)からの パートナーと密接な関係を感じる	家庭の発達段階(生まれ育った家庭)からの パートナーと密接な関係を感じる 家庭の発達段階(生まれ育った家庭)からの パートナーと密接な関係を感じる 家庭の発達段階(生まれ育った家庭)からの パートナーと密接な関係を感じる
<b>発達課題</b> 発達課題 発達課題	発達課題(発達課題)の発達に伴って 発達課題(発達課題)の発達に伴って 発達課題(発達課題)の発達に伴って	発達課題(発達課題)の発達に伴って 発達課題(発達課題)の発達に伴って 発達課題(発達課題)の発達に伴って
<b>家庭の発達段階</b> 家庭の発達段階 家庭の発達段階	家庭の発達段階(生まれ育った家庭)からの パートナーと密接な関係を感じる 家庭の発達段階(生まれ育った家庭)からの パートナーと密接な関係を感じる	家庭の発達段階(生まれ育った家庭)からの パートナーと密接な関係を感じる 家庭の発達段階(生まれ育った家庭)からの パートナーと密接な関係を感じる

※表出典:【家族の歴史を治療に活かす】家族ライフサイクルを踏まえた発達課題と危機から捉える、精神療法 2009,35(1):26-33. 元記に筆者作成



# 2024 年度 第 2 回常任理事会 議事録概要

日 時 : 2024 年 11 月 20 日(水)19:00-20:35

会 場 : オンライン(Zoom ミーティング)

出 席 : (敬称略、順不同)影山隆之 加藤純 上別府圭子 菅野恵 酒井佳永 高下梓  
津川律子 中野良吾 西村靖史 福島眞澄 真船浩介 馬淵麻由子 (13 名)

欠 席 : 2 名 委任状 : 1 通

## 【審議事項】

### 1. 2024 年度 土居健郎記念賞 選考結果

- ・2024 年 11 月 20 日に選考委員会(Zoom)を開催し、研究奨励賞に 宮坂まみ氏(名古屋産業大学)が推薦された。活動奨励賞は受賞者なし。

### 2. 学会の英語名称について

- ・影山理事長より学会のロゴを制定する提案があり、Japan Academy of Mental Health(略語 JAMH)とする案が提案された。ただし日本精神衛生会がすでに JAMH を使用しているため日本精神衛生会に影山理事長が経緯を報告し、問題がなければ 12/14 の第 3 回理事会にて審議する(総会での議題とする)こととなった。

### 3. 2024 年度総会資料(案)

- ・総会での議題については、1、会則の改正(事務局の住所の追記)、2、2023 年度事業報告・会計報告、3、2024 年度事業計画・予算案となることが確認された。

## 【報告事項】

### 1. 第 40 回大会について (中野大会長)

- ・中野大会長より進捗や協力を求める事項について説明がなされた。

### 2. 第 41 回、第 42 回大会について

- ・影山理事長より第 41 回大会は札幌の北翔大学にて 2025 年 12 月 13 日~14 日で開催されるとの報告があった。2026 年の第 42 回大会については未定。

### 3. 編集委員会 (酒井委員長)

- ・電子投稿システムの導入、査読体制の見直しについての検討が進んでいるとのこと。
- ・査読委員に対して理事長より委嘱状を発行することが承認された。

### 4. 研修委員会 (加藤委員長)

- ・開催状況および収支についての報告。第 4 回の研修会の日時、内容の報告。
- ・第 2 回、3 回の研修会については動画を配信予定。公開対象者は支払いをした人限定。動画視聴では研修ポイントとはならないことが確認された。

### 5. 広報委員会 (西村委員長)

- ・ホームページのリニューアル、学会ロゴの制定について進めていきたいとの報告があった。

## 6.能登半島地震電話相談について（福島常任理事）

- ・この間の活動報告、予算案、支出状況が報告された。
- ・理事長より、利用者は多くはないが、被災者を忘れずに活動していることが心強いという意見もあるので、1月末までは継続していけるとよいの意見があった。

# 2024年度 第3回理事会 議事録概要

日時：2024年12月14日(土)12:30-13:00

会場：創価大学教育学部 B棟 1階 B102教室

出席：(敬称略、順不同)安保寛明 飯田昭人 鉦鹿健吉 大宮秀淑 影山隆之 樫木啓二  
加藤純 狩野武道 高下梓 永井尚志 中野明德 中野良吾 西村靖史 早川東作  
平田茜 福島眞澄 船越明子 元永拓郎 馬淵麻由子 (19名)

欠席：14名 委任状：5通

### 【審議事項】

#### 1. 2024年度 土居健郎記念賞 選考結果を承認した。

○研究奨励賞 宮坂 まみ 氏 (名古屋産業大学現代ビジネス学部)

研究テーマ：

「金銭的・非金銭的な報酬と罰の使用による、ADHD 児者の反応抑制機能促進の可能性」

○活動奨励賞 該当者なし

#### 2. 学会の英語名および略語、会則への記載について

英語名称を Japan Academy of Mental Health 略称を JAcMH とする案、および会則への記載(会則の改正)を総会で審議することが承認された。

#### 3. 2024年度総会提出議案について確認し、承認された。